

と う ぐ み



学校経営基本方針 2025 スローガン

はっ き がっこう つく
みんながエージェンシーを発揮できる学校を創ろう

邑楽町立高島小学校 校長 半田 敦子

日頃より高島小学校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。…と、保護者の皆様や地域の皆様への通知文を書き出すことが多いのですが、一体、皆様にどのようにご理解いただいて、どのようにご協力をいただきたいか、学校はちゃんと伝えているだろうか、伝わっているだろうかとふと考える今日この頃です。

もちろん、すでに登下校の見守りをはじめ、保護者の皆様には子供たちの心身のケアや授業で使う道具の準備等十分ご協力いただいておりますし、地域の皆様には子供達の活動支援や心が豊かになる様々な機会をつくっていただいております。

誠にありがとうございます。

今回は、高島小学校全教職員でどのようにどんな子どもたちを育成したいと考えているか、遅ればせながら、この場を借りてお伝えし、今後皆様とより連携していきたいと考えております。

学校教育目標「思いやりのある子 自ら学び、深く考える子 最後までやりぬく子 命を大切に作る子」はこれまでと変わりありません。しかし、子供達の実態と社会が求める力を踏まえて、今年度は学校経営方針スローガンを「エージェンシーを発揮できる学校を創ろう」としました。

「エージェンシーとは？」と思う方が多いと思いますが、「人が誰しも生まれついて持っている、自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力」を「エージェンシー」と呼んでいます。（元々は国際的にこれからの社会を生きる子供たちに育成したい力としてあげられています。）

人はみな自ら成長する力を持っています。予測困難で、変化の激しい時代を柔軟に生きていくためには、これまでも学校で日頃の授業や生活の中で大切にしてきた、新しい物事にも前向きに取り組んだり、失敗してもあきらめず挑戦したり、仲間とコミュニケーションを図りながら問題を解決したりする力をより一層育てていきたいということです。

そのためには、毎日の生活、各教科等の授業、行事等において、自分で考えて、自分で動き出す場面をこれまで以上に、意図的に取り入れ、子供たちが「エージェンシー」を思う存分発揮できるようにしていきたいと考えています。そして、子供達が育っていく環境がのびのびと「エージェンシー」が発揮できる場所であるためには、子供たちが「失敗をしてもよい」「間違ってもよい」ところであることが大事です。周りの人が「人は、間違えることが当たり前、もう一度考えて、やり直せばよい」と考えているからこそ、子供たちは失敗を恐れず、自分から動き出そうとできると考えています。

さらに、エージェンシーとは、子供たちでなく、大人も誰もが持っているものです。すでに保護者の皆様にも、地域の皆様にも、「エージェンシー」を発揮していただいているところですが、みんなが同じ方向で子供たちに向き合っていけたら、子供たちは戸惑うこともなく、子供たちにとってより効果的にのびのびと育つ環境になるはずです。今後も学校、保護者の皆様、地域の皆様と連携して、子供たちが笑顔で安心してのびのびと育つ環境を創っていききたいと考えております。

高島っ子のよりよい成長のため、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（参考：エージェンシーを発揮するための学び推進プロジェクト 教育長メッセージ 群馬県教育委員会）



5年生 ♪ 音楽集会



「クラッピング ファンタジー第4番」では、グループごとにリズムを考え、手拍子(クラッピング)だけでなく、ボディパーカッションでみんなを楽しませてくれました。最後に昨年度担任された辻本先生から「発表した人はもちろん、最初のあいさつをした人、伴奏した人、号令をかけた人もみんなとても緊張したと思うけど、そういう緊張を乗り越えて人は成長します。大変素晴らしかった。」との講評をいただきました。5年生には、この経験を自信にかえ、さらに様々なことに挑戦してほしいと思います。素敵な音楽をありがとうございました！！

7月2日(水)体育館にて5年生による音楽発表会がありました。合唱「いつでもあの海は」では、1組と2組で上下のパートに分かれ、やさしいハーモニーを聞かせてくれました。合奏



おうらこども園との合同水害避難訓練



6月30日(月)に学校北側藤川が氾濫している想定で、おうらこども園と合同で避難訓練を行いました。この場合、まず、児童は校内で垂直避難として上の階の教室に移動します。次に、増水のため地域の人たちも高島小に避難するという設定で、さらに東校舎3階に高島小全員が避難するところまで訓練を行いました。しかし、水害は学校にいるときとは限りません。



1年生は3階図書室へ避難します↓

その後、子供たちは、各学級で**洪水の時の避難に関する動画(国土交通省 MLIT channel小学生向け動画「洪水から身を守るためには」)**を視聴し、自分の身を自分で守れるように安全について話し合いました。ぜひ、ご家庭でも動画を視聴していただき、家族が災害から身を守るように話題にしていきたいと思います。

たてわり活動&トレーニング



パンダのひとりごと

毎日、本当に暑いです。「今日の休み時間は外で遊べるかなあ…」と毎日、WBGT計測器にらめっこしています。子どもは遊びに熱中してしまうと暑さや寒さに鈍感になります。ゆえに、休み時間に外で遊んでいた子が「気持ちが悪い…」と保健室に来ることもよくあります。

いっそのこと、外遊びは…と考えてしまいましたが、外で遊ぶ子供たちの姿を見ると、そのおかげで熱中症を防げる体をつくっているとも言えるようです。というのも、熱中症予防には、「暑熱順化(体が暑さに慣れること)」が大事だからです。(参考：熱中症ガイド 厚労省)

しかし、数日から2週間程度で身体を熱中症対応モードにできるけれど、今、暑熱順化されていても、長期休暇で効果はゼロになるとのことですから、夏休み明けの子供たちは本当に心配です。

体の水分の貯水池とも言われている筋肉も、動かなくては筋量が低下してしまいます。現在、まだ朝はたてわり活動やトレーニングで子どもたちは体を動かすことができています。今後、暑さが増したら、どのように「子どものからだづくり」をしたらよいのでしょうか。

「暑さに対する対処法を知り、暑さに負けない体をつくる！」これからの長い人生を生きていく子どもたちに必要なことと考えずにはられません。